

授業科目名称：国際栄養論（実践的教育科目）

授業コード：53624

授業科目英文名称：Nutritional Problems in the International Health

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3	2	選択
担当教員			
高江洲 有沙（実務経験のある教員）			
展開方法	講義		
ナンバリング	IA307		
添付ファイル			

ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標	評価手段・方法	評価比率
専門力	エビデンスに基づいた健康・栄養の情報を伝えることができ、諸外国における栄養問題の課題と取り組みについて総合的に考えることができる。	・定期試験 ・課題レポート	5% 5%
情報収集、分析力	諸外国の文化的背景と食生活に関連した情報を収集し、健康について総合的に分析することができる。	・課題レポート	10%
コミュニケーション力	グループワークやディスカッションを通して、自ら発言するだけでなく、他者への発言を促すファシリテーターの意味を理解し、コミュニケーション力を身に付けることができる。	・授業態度、授業への参加度	10%
協働・課題解決力	グループワークやディスカッションを通して自ら日本と諸外国の解決すべき栄養課題を導き出し、説明することができる。	・授業態度、授業への参加度	5%
多様性理解力	国際的な視点で問題意識を持ち、諸外国の健康・食・栄養課題とその取り組みについて理解できる。	・定期試験 ・課題レポート	55% 10%
出席		受験要件	
合計		100%	

授業のねらい	世界には様々な食習慣や食文化を持つ国や地域、民族が存在している。これからの管理栄養士は、国際的な食糧の動向や健康・栄養問題を知り、食の多様化を理解するためには地球規模で健康・食・栄養の問題を考え、課題に取り組む姿勢や行動力が求められる。本授業では、グループディスカッションやグループワークを取り入れて、自文化の理解と共に多角的な視野で健康・食・栄養に関する問題を発見し、課題解決するために必要な知識やスキル、姿勢を修得する。			
アクティブラーニングの類型	②③④⑤⑦⑩			
評価基準及び評価手段・方法の補足説明	・定期試験(60%)は、国際協力に必要な知識やスキルについて穴埋め式と自身の考えを問う筆記式にて行う。課題レポート(25%)は第5回、第13回、第14回に、グループワーク及びディスカッションの内容に関する課題を指示する。 ・グループワーク及びディスカッションにて授業態度や参加度(15%)を、課題に沿った理論を踏まえた上での発言や自身の考えを伝えること、さらに、他者へ発言を促すことができているか、理論性や理解度を評価する。 ・課題レポートはポートフォリオを活用し、内容のフィードバックは授業中に行う。			
授業概要	わが国には、様々な国や地域の人々が生活をしており、食に関する指導を行う際は、対象者を十分に理解した上で指導を行うことが求められるため、諸外国の食文化や食習慣、生活などを理解しておくことが必須である。教員の国際協力の実務経験を生かして、具体的な事例を紹介し、持続可能な開発目標（SDGs）に基づいたわが国と諸外国の健康・食・栄養に関する取り組みや諸外国の歴史・食文化・習慣について学修する。授業では、配付プリントとパワーポイント、グループワーク及びディスカッション、ビデオ映像等を用いて行う。この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、180分とする。			
教科書・参考書・指定図書	教科書：特に指定はしない。授業中、適宜資料を配付する。 参考書：「実践グローバルヘルス-現場における実践力向上をめざして-」日本国際保健医療学会編 杏林書院、 「国際栄養学-グローバルな栄養課題とその対策-」村山伸子他編著 建帛社 指定図書：「実践グローバルヘルス-現場における実践力向上をめざして-」日本国際保健医療学会編 杏林書院、 「食からの異文化理解-テーマ研究と実践-」河合利光編著 時潮社			
授業外における学修及び学生に期待すること	諸外国の健康や栄養、食文化に関するニュースの情報収集を意識的に行い、日本と諸外国の違いや共通する部分について考え、視野を広げていくことを期待する。また、世界で起きている健康・栄養の問題を自分事化する意識をもって授業に取り組んでいただきたい。授業中の私語、スマートフォン、携帯電話、メール等の使用は厳禁である。また、特別な事情を除き無許可での途中退出は不可とする。			
授業計画	回	テーマ	授業の内容	予習・復習
	1	オリエンテーション 日本の食文化の歴史	・国際栄養論の概説並びに受講生に望むこと、受講上の注意点 ・日本の食文化や諸外国の食について	予・復）行ったことのある国や地域、行ってみたい国や地域の食を調べる

2	世界の国や地域の多様性	「世界がもし100人の村だったら」ゲームを通して世界の人々の分布や多様性を知る (グループワーク) (※テーマは受講人数によって変更することもある。)	予) なし 復) 世界人口や民族を理解する
3	食料と環境問題	世界の食料事情と環境問題 (水と汚染、農業等)	予) 食料と食糧の違いや近年の環境問題について 復) 食料と環境問題
4	国際機関と日本の役割	国際機関の役割と日本のODA (主に医療・保健分野に関連する機関)	予) 栄養に係わる国際機関を調べる 復) 国際機関とODA
5	世界の健康・栄養問題について	世界の健康・栄養問題を把握し、解決に向けての取組みをグループディスカッション (課題レポート)	予) どのような健康・栄養問題があるのか調べる 復) 課題レポート
6	世界の栄養問題①	国際的な栄養に関する政策と施策 (MDGs)	予) 日本の栄養に関する政策 復) 国際的な栄養課題に対する取組み
7	世界の栄養問題②	主要な栄養問題とその原因 (途上国、先進諸国)	予) 栄養問題には何かあるのか考えておく 復) 栄養問題の解決に向けて取り組みこと
8	世界の健康・栄養状態	世界の健康・栄養状態を判断するための指標やデータについて知る	予) 栄養状態を把握するために必要と思われる知識 復) 低栄養や貧困の指標を理解する
9	各国の栄養政策	諸外国の食生活指針やフードガイドなどを知り、各国が抱えている栄養課題を学ぶ	予) 日本の食生活指針 復) 諸外国の食生活指針
10	各国の栄養政策とNCDs	諸外国のNCDs対策について知る (大洋州における取組事例等)	予) 日本の生活習慣病について 復) NCDsの基本的な内容
11	食の異文化理解①	諸外国の食文化や郷土料理、宗教食について知る (ゲストスピーカー・管理栄養士) (事後レポート)	予・復) 諸外国・地域の食材や調理法を事前に調べ、食文化や食品などの特徴を理解する
12	食の異文化理解②	諸外国の食文化や宗教食、国際協力について知る (ゲストスピーカー・NPO法人) (事後レポート)	予・復) 諸外国の食文化や国際協力を調べ、食文化や宗教などの特徴を理解する
13	多様性理解のために必要な技法	ファシリテーターの体験を通して多様性を理解する上で必要な知識や技法をグループディスカッションで学ぶ (課題レポート)	予) 2回目の多様性について復習しておく 復) 課題レポート
14	持続可能な開発目標 (SDGs)	健康・栄養に関する項目について事例を紹介しながら学び、各自で持続可能な開発目標に関する行動目標について考え、グループワークを行う (課題レポート)	予) SDGsについて事前学習 復) SDGsの各自の行動目標を考えて行動に移すことができる。
15	まとめ	諸外国の栄養士制度 授業の振り返りとまとめ	予・復) 世界の国々の栄養問題解決に向けての取り組みを考える
16	定期試験		